

福祉サービス第三者評価

〔令和7年度〕

評価結果報告書

株式会社MIRATZ
MIRATZ常盤台保育園

評価機関 有限会社エテルノ

| | |
|---|--|
| 1 | <p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> |
| | <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>（理念）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来の希望に向かって発展・向上する明るい元気な子どもを育む ・心豊かなエコ環境と優しい地域社会に生き生きと共生する子どもを育む ・みんなを親しみ愛し、太陽のように温かい心を持った子どもを育む <p>Value（行動規範）</p> <p><見守り>・一人一人の発達（年齢/個性）を理解した上で見守りすることで、子どもの主体性が育つ保育を展開する</p> <p><手を貸す>・子どもが達成感を味わえるような配慮をした上で手を貸すことで、子どもの主体性が育つ保育を展開する・危険を伴う行為などには手を出して安全を確保する</p> <p><褒め方>・子どもが褒められたことにより次の活動意欲や成長に繋がるような言葉かけ、関わりをする・結果だけではなく、「チャレンジした過程・プロセスも褒める」を大切にする</p> <p><叱り方>・他児に対して危害（暴力/言葉も含む）を加えた時、危険な行為をした時は、きちんと叱る・叱る際は、理由とともにわかりやすい言葉で冷静に伝える</p> <p><やってはいけないこと>・子どもに対して感情的に怒ること・子どもを交換条件で動かそうとすること（～しないと～できない等）・子どもにレッテルを貼ること</p> |
| 2 | <p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> |
| | <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職として保育に対して向上心を持ち保育者自身も子どもと一緒に興味関心を持ち、子どもと一緒に物事を考えられる人物。 ・社会規律を守り自分の言動や行動に責任感を持てる人間性。 ・子どもの気持ち、保護者の気持ち、同僚の気持ちを考え認め合い尊重して関われる想像力を持った人物。 |
| | <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員間で様々な長所・短所を認め、感性や柔軟な発想、行動を通してお互いが刺激し合える関係性を作り保育に対する自主性と意欲、責任感を持てる人。 ・保護者との信頼関係の中で子育てに対して共有・共感・サポートし気持ちに寄り添うことができる心のゆとり豊かさ想像力のある人。 ・子どもの成長をそばで見守り、丁寧な保育を行うなかで乳児期の大切な時期であることを意識し心豊かな、子どもの育ちを大切にする保育ができる人を目指してほしい。 |

| | |
|---------------------|--|
| 調査対象 | 保育園に通っている園児17世帯18人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。 |
| 調査方法 | 保護者にはウェブ調査回答用URLおよびQRコード、IDを配付して、回答をウェブ上で収集した。外国語世帯のみ調査票の直接郵送にて回収した。結果は選択式・自由記述式ともに園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。 |
| 利用者総数 | 18 |
| 利用者家族総数(世帯) | 17 |
| 共通評価項目による調査対象者数 | 17 |
| 共通評価項目による調査の有効回答者数 | 10 |
| 利用者家族総数に対する回答者割合(%) | 58.8 |

利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」60.0%、「満足」20.0%の計80.0%であった。自由意見では、「先生たちの仲が良さそうで、園内の雰囲気がとても良いように感じます。」「持ち物が少なくて助かります。良くお散歩にも連れて行っていただいているようで嬉しいです。」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「保育時間の変更」「安全対策」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」などの17問中14問が80%以上の支持を得ている。

利用者調査結果

| 共通評価項目 | 実数 | | | |
|--|----|-----------|-----|------------|
| | はい | どちらともいえない | いいえ | 無回答 非該当 |
| 1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか | 9 | 1 | 0 | 0 |
| 「はい」の回答は90.0%、「どちらともいえない」の回答は10.0%であった。自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。 | | | | |
| 2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか | 9 | 1 | 0 | 0 |
| 「はい」の回答は90.0%、「どちらともいえない」の回答は10.0%であった。自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。 | | | | |
| 3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか | 8 | 2 | 0 | 0 |
| 「はい」の回答は80.0%、「どちらともいえない」の回答は20.0%であった。自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。 | | | | |

| | | | | |
|---|----|---|---|---|
| 4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか | 10 | 0 | 0 | 0 |
| 「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「中学生の職業体験や老人ホーム訪問など普段ではできない体験をさせてもらえる。」という声が寄せられていた。 | | | | |
| 5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか | 9 | 1 | 0 | 0 |
| 「はい」の回答は90.0%、「どちらともいえない」の回答は10.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。 | | | | |
| 6. 安全対策が十分取られていると思うか | 9 | 1 | 0 | 0 |
| 「はい」の回答は90.0%、「どちらともいえない」の回答は10.0%であった。 自由意見では、「扉付近に監視カメラがある点は安心している。」という声が寄せられていた。 | | | | |
| 7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か | 7 | 2 | 0 | 1 |
| 「はい」の回答は70.0%、「どちらともいえない」の回答は20.0%、「無回答・非該当」の回答は10.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。 | | | | |
| 8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか | 9 | 0 | 0 | 1 |
| 「はい」の回答は90.0%、「無回答・非該当」の回答は10.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。 | | | | |
| 9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか | 8 | 1 | 0 | 1 |
| 「はい」の回答は80.0%、「どちらともいえない」の回答は10.0%、「無回答・非該当」の回答は10.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。 | | | | |
| 10. 職員の接遇・態度は適切か | 9 | 0 | 0 | 1 |
| 「はい」の回答は90.0%、「無回答・非該当」の回答は10.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。 | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか | 9 | 0 | 0 | 1 |
| 「はい」の回答は90.0%、「無回答・非該当」の回答は10.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。 | | | | |
| 12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか | 7 | 2 | 0 | 1 |
| 「はい」の回答は70.0%、「どちらともいえない」の回答は20.0%、「無回答・非該当」の回答は10.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。 | | | | |
| 13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか | 9 | 1 | 0 | 0 |
| 「はい」の回答は90.0%、「どちらともいえない」の回答は10.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。 | | | | |
| 14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか | 9 | 1 | 0 | 0 |
| 「はい」の回答は90.0%、「どちらともいえない」の回答は10.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。 | | | | |
| 15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか | 9 | 0 | 1 | 0 |
| 「はい」の回答は90.0%、「いいえ」の回答は10.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。 | | | | |
| 16. 利用者の不満や要望は対応されているか | 9 | 1 | 0 | 0 |
| 「はい」の回答は90.0%、「どちらともいえない」の回答は10.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。 | | | | |
| 17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか | 7 | 3 | 0 | 0 |
| 「はい」の回答は70.0%、「どちらともいえない」の回答は30.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。 | | | | |

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1~3、6-5~6)

| No. | 共通評価項目 サブカテゴリー1 | | サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 |
|-----|---|---|-----------------------|
| 1 | サービス情報の提供 | | 4/4 |
| | 評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している | | 評点(〇〇〇〇) |
| | 評価 | 標準項目 | |
| | 確認済み | 1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している | |
| | 確認済み | 2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている | |
| | 確認済み | 3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している | |
| | 確認済み | 4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している | |
| | サブカテゴリー1の講評 | | |
| | <p>多様な媒体での発信と個別の対応で、利用希望者に寄り添った情報提供を行っている</p> <p>園では、利用希望者が保育内容を具体的にイメージできるよう、SNSやホームページで保育の様子や行事を発信している。また、園のリーフレットを玄関や近隣の児童館に設置し、広く情報を提供している。園見学は希望者の日時に合わせて随時受け入れ、見学時にはリーフレットを用いて丁寧に説明されている。外国籍の見学者にはルビ付きの資料を用いるなど、一人一人の状況に応じたきめ細やかな配慮がなされている。</p> <p>見学者の状況や要望に寄り添い、安心感につながる柔軟な情報提供を心がけている</p> <p>園では、利用希望者からの見学要望に対し、随時受け入れる柔軟な体制を整えている。見学時には、見学者の状況や関心に応じて個別に案内し、質問が少ない方には積極的に声をかけるなど、丁寧なコミュニケーションを心がけている。特に、離乳食に関心のある保護者には、栄養士による試食会を案内するなど、具体的なニーズに応じた情報提供が行われている。これらの取組により、利用希望者は安心感を持って入園を検討することができる。</p> <p>保育体験や子育て支援を通じて、地域に開かれた実践的な情報提供を行っている</p> <p>園では、地域の子育て家庭に対し、保育所体験の機会を積極的に提供している。0歳児には室内での落ち着いた時間を、1、2歳児には誕生会などの行事への参加を促し、実際の園生活を体験してもらうことで、園への理解を深める工夫をしている。見学時には保育室に実際に入ってもらうことで、園の雰囲気を感じられるように配慮されている。これらの実践的な情報提供は、利用希望者が入園後の生活を具体的に描く助けとなっている。</p> | | |

| サブカテゴリー2 | | サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 | 6/6 |
|---|--|-----------------------|-----|
| 2 | サービスの開始・終了時の対応 | | |
| 評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている | | 評点(〇〇〇) | |
| 評価 | 標準項目 | | |
| 確認済み | 1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している | | |
| 確認済み | 2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている | | |
| 確認済み | 3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している | | |
| 評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている | | 評点(〇〇〇) | |
| 評価 | 標準項目 | | |
| 確認済み | 1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している | | |
| 確認済み | 2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している | | |
| 確認済み | 3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている | | |
| サブカテゴリー2の講評 | | | |
| <p>入園前の面談と丁寧な説明で、保護者一人一人と相互理解を深め合意している</p> <p>園では、サービスの開始にあたり、入園前に個別面談を実施している。その際、「重要事項説明書」の読み合わせを行い、基本的なルールやサービス内容について丁寧に説明されている。特に、兄弟児が在園していた家庭など、保護者の状況に応じて説明内容を調整する配慮が見られる。事前に書類を渡し、予め目を通してもらうことで、面談時に保護者の理解を深め、円滑な合意形成に繋げている。</p> <p>一人一人に合わせた慣らし保育で、子どもの不安を和らげるきめ細やかな配慮をしている</p> <p>園では、子どもの環境変化による不安やストレスを軽減するため、個々の状況に応じた慣らし保育を計画的に実施している。「入園のしおり」に記載された日程はあくまで目安とし、子どもの様子や保護者の意向を尊重しながら柔軟に対応している。入園時に「入園面談ヒヤリングシート」を用いて把握した子どもの個別事情は、職員会議で全職員に共有され、園全体で一人一人の子どもに寄り添う体制が整えられている。</p> <p>卒園や転園をしても安心できるよう、継続的な支援と不安を和らげる配慮を行っている</p> <p>園では、サービスの終了に際し、子どもと保護者の不安を軽減するための支援を行っている。年度後半に個人面談を実施し、保護者の悩みや子どもの育ちに関する不安を聞き取るとともに、園での様子を伝えることで、転園先での生活が円滑に始められるよう配慮している。また、卒園した児童の訪問を随時受け付けており、卒園後も園との繋がりを感じられるような温かい関係性を継続している。</p> | | | |

| | | サブカテゴリ-3 | |
|--|--|----------------------------|--|
| 3 個別状況の記録と計画策定 | | サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 12/12 | |
| 評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している | | 評点(〇〇〇) | |
| 評価 | 標準項目 | | |
| 確認済み | 1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している | | |
| 確認済み | 2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している | | |
| 確認済み | 3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている | | |
| 評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している | | 評点(〇〇〇〇〇) | |
| 評価 | 標準項目 | | |
| 確認済み | 1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している | | |
| 確認済み | 2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている | | |
| 確認済み | 3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている | | |
| 確認済み | 4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している | | |
| 確認済み | 5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている | | |

| 評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している | | 評点(〇〇) |
|--|---|--------|
| 評価 | 標準項目 | |
| 確認済み | 1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある | |
| 確認済み | 2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している | |
| 評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している | | 評点(〇〇) |
| 評価 | 標準項目 | |
| 確認済み | 1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している | |
| 確認済み | 2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている | |
| 確認済み | 3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている | |
| サブカテゴリ3の講評 | | |
| <p>様々な記録を活用して情報を集め、子どもの発達に応じて継続的に状況を把握している</p> <p>園では、子どもの心身の状況や生活状況を多角的に把握するため、「児童票」「保育日誌」「連絡帳」「個別発達記録」「身体測定表」「健康診断記録」といった統一された様式を体系的に活用している。特に「個別発達記録」においては、子どもの成長段階に応じて記録と見直しの頻度を1ヶ月ごとから6ヶ月ごとへと細かく設定しており、発達の変化を的確かつ継続的に捉えるアセスメント体制が構築されている。これらの記録は職員会議で共有され、一人一人の子どもの状況に応じた適切なサービス提供の基礎情報として活用されている。</p> <p>全体計画に基づき指導計画を立て、子どもの実態や保護者の要望に応じて見直している</p> <p>園では、年度末に見直される「全体的な計画」を基盤とし、「年間指導計画」「月案」「週日案」を体系的に作成している。養護と教育の各領域を考慮したこれらの計画に加え、全クラスで「個別月案」を作成し、一人一人の発達や興味、その子らしさが生きるよう配慮した計画を立てている。送迎時の会話や連絡帳から保護者の要望をきめ細かく把握し、例えば2歳児のトイレトレーニングの要望を保育計画に取り入れるなど、子どもの実態や家庭との連携を重視した柔軟な見直し実践されている。</p> <p>多様なツールと会議を活用し、全職員で子どもの状況を共有する体制を整えている</p> <p>園では、職員会議に加え、「職員伝言ノート」や玄関に設置された「登降園チェック表」など、多様な情報共有ツールを効果的に活用している。これにより、早番・遅番職員からの申し送りを含め、子どもの日々の変化や保護者からの情報を全職員が迅速かつ確実に把握できる体制が整えられている。また、月1回の職員会議では、各クラスの事例を持ち寄り「保育所保育指針」と照らし合わせて話し合う機会を設けており、担当者だけでなく全職員が子ども一人一人への理解を深め、一貫性のある保育を実践している。</p> | | |

| サブカテゴリ5 | | サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 | 5/5 |
|--|---|----------------------|-----|
| 5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 | | | |
| 評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している | | 評点(〇〇) | |
| 評価 | 標準項目 | | |
| 確認済み | 1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている | | |
| 確認済み | 2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている | | |
| 評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している | | 評点(〇〇〇) | |
| 評価 | 標準項目 | | |
| 確認済み | 1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している | | |
| 確認済み | 2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている | | |
| 確認済み | 3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている | | |
| サブカテゴリ5の講評 | | | |
| <p>個人情報は保護者の同意を得て管理し、プライバシーを大切にする保育を行っている 園では、子どもに関する情報を外部とやり取りする際は、入園時の包括的な同意に加え、必要に応じてその都度保護者の同意を得ることを徹底している。SNS等への写真掲載は、園長が最終確認を行うなど、慎重な情報管理体制が敷かれている。また、保育実践においては、トイレへの移動を少人数で行ったり、排便の事実を他の子どもに聞こえないように伝えたりするなど、子どもの羞恥心やプライバシーに配慮したきめ細やかな対応が日々行われている。</p> <p>自己チェック表と研修を活用し、子どもの権利を大切にする保育を進めている 園では、子ども一人一人を尊重する保育を全職員で実践するため、「保育士等自己チェック表」を統一した指針として活用している。職員は年に数回、このチェック表を用いて自己評価を行い、その結果を基にした園内研修や個人面談を通じて、子どもの権利擁護への理解を深めている。また、宗教上の食事制限がある家庭に対しては、献立を工夫し他の子どもと見た目が変わらないように配慮するなど、個々の価値観や生活習慣を尊重する保育を実践している。</p> <p>ガイドラインの共有と日々の見守りにより、組織全体で子どもの安全を確保している 園では、「虐待という重い事案」として捉え、虐待防止に向けた組織的な取組を強化している。「虐待防止対応ガイドライン」を基準とし、年度当初や職員の交代時には全職員で読み合わせを行い、対応手順を周知徹底している。日々の保育においては、子どもの視診に注力し、ささいな変化も見逃さないよう職員間で情報を密に共有している。また、地域の関係機関との連携にも努め、子どもの最善の利益を守るための体制を構築している。</p> | | | |

| サブカテゴリー6 | | サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 | 5/5 |
|--|---|-------------------|-----|
| 6 事業所業務の標準化 | | | |
| 評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている | | 評点(〇〇〇) | |
| 評価 | 標準項目 | | |
| 確認済み | 1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている | | |
| 確認済み | 2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている | | |
| 確認済み | 3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している | | |
| 評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている | | 評点(〇〇) | |
| 評価 | 標準項目 | | |
| 確認済み | 1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている | | |
| 確認済み | 2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている | | |
| サブカテゴリー6の講評 | | | |
| <p>全職員が同じ水準で業務を行えるよう、法人本部と協力してマニュアルを作成している</p> <p>園では、法人本部が定める「MIRATZ マニュアル」を基本としつつ、園の実態に合わせてより具体的な手順を明記した独自の「MIRATZ常盤台保育園 保育士マニュアル」を作成している。これらのマニュアルは、職員事務室にファイリングしていつでも閲覧できるようにするとともに、特に重要な手順は必要な箇所に掲示することで、職員が日常業務の中で自然と確認できる環境を整えている。これにより、職員は不明点が生じた際に自己判断に頼ることなくマニュアルを参照し、園として統一された一定水準のサービス提供を実践している。</p> <p>職員や保護者など、様々な人の声に耳を傾け、継続的にサービスを改善している</p> <p>園では、サービスの質を継続的に向上させるため、監査後や年度末といった定期的な時期に加え、板橋区の保育巡回指導での助言や職員からの提案があった際には、その都度マニュアルの見直しを行っている。見直しにあたっては、職員会議で活発な意見交換を行うだけでなく、「運営委員会」や「保護者アンケート」を通じて保護者の意見や要望を積極的に収集している。これらの多様な主体からの声を業務改善に反映させる仕組みを構築することで、現状に即した実効性の高いサービス向上を実現している。</p> <p>マニュアルを整備し、多様な意見で常に見直すことで、業務の質を高めている</p> <p>園では、法人本部と連携して作成したマニュアルを職員事務室や必要な場所に設置し、全職員がいつでも業務手順を確認できる体制を整えている。さらに、マニュアルが形骸化しないよう、点検表を用いて遵守状況を定期的に確認するだけでなく、職員会議での議論、保護者アンケート、行政からの助言など、多角的な視点から得られた意見を基に、年度末や必要に応じて都度内容を見直している。この「整備・活用・点検・見直し」というサイクルを確立することで、業務の標準化を図るとともに、実態に即した継続的な質の向上を実現している。</p> | | | |

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

| サービスの実施項目 | | サブカテゴリー4 | サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 | 35 / 35 |
|---|--|------------|-------------------|---------|
| 1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている | | 評点(〇〇〇〇〇〇) | | |
| 評価 | 標準項目 | | | |
| 確認済み | 1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている | | | |
| 確認済み | 2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している | | | |
| 確認済み | 3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している | | | |
| 確認済み | 4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している | | | |
| 確認済み | 5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつキ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている | | | |
| 評価項目1の講評 | | | | |
| <p>子どもへの理解を深め安心と成長を支える保育を実践している</p> <p>園では、入園時の児童票や面談シートを活用し、個別の発達状況や生活環境を把握している。日常は連絡帳や送迎時の会話を通じて観察し、子どもの変化に応じた保育を実施している。子どもの自主性や主張に配慮し、柔軟な対応を心掛けている。効果として、子どもは安心して集団生活を送り、自己表現や協力が育まれている。職員は情報共有や記録の工夫により、きめ細やかな支援を提供できている。</p> <p>主体性と多様性を尊重し心の育ちを支える保育を行っている</p> <p>子どもが自ら遊びを選択できるよう、コーナー設定やごっこ遊びの玩具等を工夫している。小規模保育の特性を活かし、多様な職員や異年齢児と関わる中で、自己肯定感や思いやりの心を育んでいる。また、外国籍の子どもへの配慮や宗教食の提供、多国籍な行事や給食の導入により、文化の違いを自然に受け入れる環境を整えている。職員が平等に接する姿勢を示すことで、子ども同士も互いを尊重し合う関係性が築かれている。これらは、社会生活の基礎となるコミュニケーション能力や問題解決能力の向上に寄与している。</p> <p>子どもの気持ちに寄り添い安心感を大切にされた対応を行っている</p> <p>園では、子どものけんかや噛みつきなどのトラブルに対し、子どもの気持ちを尊重しながら適切な対応を行っている。処置として流水で冷やすほか、お互いの思いを年齢に応じて代弁し、表情を読み取りながら仲直りを促している。謝罪は無理に求めず、感情の落ち着きを確認した上で遊びに復帰させる工夫をしている。保護者へもトラブルの経緯と対応を伝え、安心感を与えている。これにより、子どもたちが安全かつ安心して集団活動を行い、人間関係の基本を安心して育む効果が期待できる。</p> | | | | |

| | | |
|---|---|----------|
| 2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている | | 評点(〇〇〇〇) |
| 評価 | 標準項目 | |
| 確認済み | 1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している | |
| 確認済み | 2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している | |
| 確認済み | 3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している | |
| 確認済み | 4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている | |
| 評価項目2の講評 | | |
| <p>職員連携による個別配慮の行き届いた保育を実践している</p> <p>園では、登園時から降園時まで、職員間の密な連携により、子ども一人一人の状況に合わせたきめ細やかな保育を提供している。朝礼での情報共有は、子どもの家庭での様子を把握し、安全で安心できる園生活を保障する上で不可欠である。また、排泄や休息といった基本的な生活習慣の援助においては、発達段階に応じた丁寧な働きかけと、羞恥心への配慮が見られ、専門性の高さを感じる。遅番保育士からの申し送りやクラスボードの活用は、質の高い保育を継続的に提供するための組織的な努力である。</p> <p>家庭と連続した丁寧な関わりで信頼ある保育を行っている</p> <p>園の保育は、子ども一人一人の生活リズムや発達段階を尊重し、家庭との連続性を重視している。登園時には家庭での様子を丁寧に確認し、子どもが安心して過ごせるよう配慮している。排泄や食事、休息の援助においては、子ども自身の主体性を引き出し、自立を促すきめ細やかな働きかけがなされている。降園時の口頭での説明に加え、連絡帳やSNSを通じた情報発信は、保護者が園での子どもの様子を多角的に把握でき、安心感に繋がっている。保護者からの相談や要望に真摯に耳を傾け、保育に反映させる姿勢は、信頼関係を深めている。</p> <p>地域と家庭をつなぎ子育て支援の拠点として機能している</p> <p>園は、地域の子育てを支える重要な拠点として、質の高い保育実践を展開している。家庭との密な連携により、地域の子どもたちが安心して健やかに成長できる環境を提供している。子ども一人一人の発達段階に応じた生活習慣の援助は、将来の地域社会を担う子どもたちの基礎力を育む上で極めて重要である。連絡帳やSNSを活用した園からの情報発信は、地域住民に対し園の活動内容を透明性高く伝え、子育てに関する情報共有の機会を創出している。これらの取組は、地域全体の保育への理解と、子育て支援の質の向上に貢献している。</p> | | |

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇)

| 評価 | 標準項目 | |
|------|---|--|
| 確認済み | 1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている | |
| 確認済み | 2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している | |
| 確認済み | 3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している | |
| 確認済み | 4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている | |
| 確認済み | 5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている | |
| 確認済み | 6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している | |

評価項目3の講評

主体性を大切に環境構成と専門的援助を行っている

子どもの自主性を将来の生きる力の基礎と捉え、環境構成に注力している。玩具を自分で取り出しやすい位置に配置し、パズル等の静とマット運動等の動の空間を分離することで、遊びへの集中を促している。0～2歳児保育では一対一の応答的な関わりを重視し、指差し等に丁寧に応えることで発語の意欲を育てている。指導計画に基づき、季節の歌や感触遊びを取り入れる等、多角的な表現活動を展開している。職員が個々の興味を的確に汲み取り、主体性を引き出す質の高い専門的援助を組織的に実践している。

園外活動と丁寧な関わりで心の育ちを支えている

天候が許す限り毎日の園外活動を実施し、五感を通じた豊かな体験を提供している。散歩では季節の草花や霜柱に触れ、驚きや感動を共有することで子どもの探求心を育てている。また、散歩中の交通ルールやテーブルに乗らない等のきまりについても、子どもが理解できる言葉で理由を丁寧に伝えることで、自律的な心の成長を支えている。集団活動での協力や思いやりを学ぶ機会を設けるとともに、個別の丁寧な対話を通じて自己肯定感を高めており、子どもが安心して自分を表現できる環境が十分に整っている。

地域資源を活かした園外活動で社会性を育てている

地域資源を積極的に活用し、川沿いや電車見学等の園外活動を日々実践している。地域社会との接点を持ちながら、公共のマナーや交通ルールを学ぶ機会を設けており、社会生活の基盤を築く教育的配慮が見られる。季節に応じた制作や歌、地域環境の変化を感じ取る活動は、文化や自然への関心を深める役割を果たしている。他者との関わりを通じて多様性を尊重する力を養う姿勢は、次世代を担う0歳児から5歳児の育成において重要である。地域に開かれた活動を通じ、児童福祉の質の向上に寄与している。

| | | | | |
|--|---|-------------------------------|--|---------|
| 4 評価項目4 | | 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している | | 評点(〇〇〇) |
| 評価 | 標準項目 | | | |
| 確認済み | 1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している | | | |
| 確認済み | 2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している | | | |
| 確認済み | 3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている | | | |
| 評価項目4の講評 | | | | |
| <p>子どもの主体性を尊重した行事運営を大切にしている</p> <p>園の行事運営は、子どもの自主性と意欲を最優先している。発表会における普通の保育で興味のあることの尊重や無理な練習はしないという方針は、職員が子どもの内面を深く理解し、専門的な視点から企画している。クラスで協力して計画を進める過程は、協調性や達成感を育む重要な機会である。また、年間計画の共有、保護者会での説明、個別事情への柔軟な対応など、保護者との密な連携は、職員の子チームワークと高いプロ意識を反映している。行事を子どもの成長の証と捉える理念は、日々の保育と行事が有機的に繋がる質の高い実践を可能にしている。</p> <p>行事を通して主体的な学びと成長を支えている</p> <p>普通の遊びの延長線上にある発表会や、日本、外国の多様な文化に触れる機会は、子どもたちの興味関心を広げ、主体的な学びを促している。みんなで協力し、やり遂げる喜びを味わう経験は、自己肯定感と社会性を育む貴重な体験である。保護者に対しては、年間を通じた情報提供や保護者会での丁寧な説明、さらに個別事情への配慮があり、安心して行事に参加できる環境が整っている。行事の意味を子どもの成長の場と理解を促すことで、できたできないではない、温かい眼差しで子どもの発達を見守る姿勢が共有されている。</p> <p>地域と共に子どもの育ちを支える行事運営を行っている</p> <p>園の行事は、子どもたちの興味関心を尊重し、無理なく参加を促す方針は、地域全体の子育て支援において模範となる実践である。協力して目標を達成する経験は、将来地域社会で活躍する上で不可欠な協調性や社会性を育む。保護者への丁寧な情報発信や、行事の意義を子どもの成長の場と明確に伝える姿勢は、地域の子育てに対する理解を深め、共感を醸成している。これらの取り組みは、地域コミュニティにおける子どもの健やかな育ちを支え、質の高い保育実践を通じて、地域の子育て文化の向上に貢献している。</p> | | | | |

| | | |
|--|--|----------|
| 5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている | | 評点(〇〇) |
| 評価 | 標準項目 | |
| 確認済み | 1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている | |
| 確認済み | 2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている | |
| 評価項目5の講評 | | |
| <p>長時間保育でも安心できる環境と養護を大切にしている 保育時間の長い子どもに対し、個別の生活リズムに配慮した環境設定を行っている。夕寝が必要な子を静かな部屋へ移動させる等、心身の休息を促す柔軟な対応が見られる。合同保育時には、異年齢児が混在することによる誤飲や怪我を防ぐため、玩具の選別やゾーニング、職員配置を徹底している。これらの配慮は月案に明記され、職員間で共通認識を持って実践されている。安全な環境下で子どもがくつろげるよう、人的・物的環境の両面からきめ細やかに対応しており、長時間保育における専門的な養護が展開されている。</p> <p>家庭のように安心して過ごせる長時間保育を行っている 一日の大半を園で過ごす子どもが、家庭のようにくつろげる配慮がなされている。お迎えを待つ間、安心できる絵本や玩具を用意し、保育士が寄り添うことで精神的な安定を図っている。保護者に対しては、保育室の外から実際の様子を見せたり、遊んでいた玩具を提示しながら口頭で伝える等、子どもの過ごし方を可視化する工夫が見られる。長時間利用における子どもの疲労や心情を深く理解し、一人一人に寄り添いながら丁寧に應對する姿勢は、保護者の大きな安心と園への信頼感に繋がっている。</p> <p>家庭のように安心して過ごせる長時間保育を行っている 園は、保育時間の長い子どもたちへのきめ細やかな配慮を通じて、地域の子育て世帯を力強く支えている。一人一人の生活リズムを尊重した環境整備は、共働き世帯が安心して子どもを預けられる基盤を提供している。合同保育時における、異年齢児の安全確保や発達段階に応じた遊びの提供は、地域の全ての子どもたちが健全に成長するための重要な実践である。特に、危険物の除去や職員配置の徹底、空間のゾーニングは、安全を最優先する姿勢を地域社会に示している。これらの取組は、地域全体の保育の質を高め、子育て支援の充実へ大きく貢献している。</p> | | |
| 6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している | | 評点(〇〇〇〇) |
| 評価 | 標準項目 | |
| 確認済み | 1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している | |
| 確認済み | 2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている | |
| 確認済み | 3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している | |
| 確認済み | 4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている | |
| 確認済み | 5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている | |
| 評価項目6の講評 | | |
| <p>一人一人に寄り添った安心で豊かな食育を実践している 栄養士と保育士が密に連携し、子どもの嗜好や発達段階に合わせた献立作成を行っている。遊びと食事の空間を分ける環境構成や、固定の座席配置により、子どもが安心して食事に集中できる工夫が見られる。アレルギー対応やイスラム教等の宗教食に対しても、代替食の提供を含め個別状況を正確に把握した体制を構築している。離乳食期から出汁文化に触れる等の創意工夫を凝らし、職員が一丸となって子どもの食べる意欲と豊かな感性を育てている点は、専門性の高い取組である。</p> <p>個別配慮と体験を大切に温かな食育を行っている 子ども一人一人の体調や食物アレルギー、宗教上の背景を尊重し、細やかな個別対応を実施している。行事食ではハロウィンのクッキーなど見た目にも工夫を凝らし、子どもが食事を心待ちにする雰囲気作りを徹底している。また、同じメンバーで食べる安心感の醸成や、職員が適切に褒める関わりを通じて、子どもの自信と意欲を引き出している。シイタケやミニ大根の栽培活動といった実体験を伴う食育は、保護者にとっても園の教育方針への信頼と安心感に繋がっている。</p> <p>地域に開かれた食育の取組で信頼と共生を育てている 園児学者に対する食事の試食実施など、地域に開かれた運営を通じて、園の食へのこだわりを積極的に発信している。多様な文化や宗教に配慮した食事提供の実践は、地域における多文化共生の先進的な事例となっている。また、栽培活動を通じた食育の実践や、日本の出汁文化を伝える取組は、次世代へ食の重要性を継承する活動として意義深い。地域住民や関係機関との連携を深めながら、専門的な知見を地域へ還元しようとする姿勢は、福祉拠点としての役割を十分に果たしている。</p> | | |

| | | |
|--|--|-----------|
| 7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している | | 評点(〇〇〇) |
| 評価 | 標準項目 | |
| 確認済み | 1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している | |
| 確認済み | 2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている | |
| 確認済み | 3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている | |
| 評価項目7の講評 | | |
| <p>健康と安全を大切にされた専門的な保育を実践している</p> <p>栄養士によるイラストを用いた手洗い指導や、全身を使うサーキット遊びを通じ、子どもの健康への関心を高めている。医療的ケア児への対応では、嘱託医や行政と緊密に連携し、個別計画書やチェックリストを作成することで、漏れのない支援体制を構築している。また、乳幼児突然死症候群(SIDS)の予防について園内研修を継続し、職員の意識向上を図っている。専門機関との連携を深めつつ、日々の保育における具体的な安全管理の仕組みを組織的に実践している点は、職員の専門性の高さを示している。</p> <p>保護者と連携し子どもの健康と安全を丁寧に守っている</p> <p>「入園のしおり」や面談を活用し、SIDS予防等の重要事項を保護者へ丁寧に共有している。子どもが自ら手洗いに取り組めるよう視覚的な工夫を凝らすことで、家庭への意識の広がりにも寄与している。医療的ケアにおいては、熱性けいれんやアレルギーへの備え薬を「与薬依頼書」に基づき預かる体制を整え、主治医や嘱託医と連携した万全の対応を講じている。個別の健康状態に寄り添い、保護者と協力しながら子どもの安全を最優先に守る姿勢は、利用者の大きな安心感に繋がっている。</p> <p>地域と連携し子どもの健康を守る体制を大切にしている</p> <p>園では、板橋区等からの周知依頼を玄関掲示で発信するなど、地域の公的な健康情報を適切に伝達している。重篤なアレルギーや熱性けいれん等の事例に対し、嘱託医や区、救急医療機関と具体的な救急対応を想定した協議を重ねており、地域における福祉拠点としての責務を果たしている。専門的な知見を「食育計画書」等の計画に落とし込み、多様な医療ニーズに応える体制を整える姿勢は重要である。外部機関と連携しつつ子どもの健康維持に真摯に取り組む活動は、地域社会の信頼に資するものである。</p> | | |
| 8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている | | 評点(〇〇〇〇〇) |
| 評価 | 標準項目 | |
| 確認済み | 1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている | |
| 確認済み | 2. 保護者同士が交流できる機会を設けている | |
| 確認済み | 3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている | |
| 確認済み | 4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている | |
| 確認済み | 5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している | |
| 評価項目8の講評 | | |
| <p>家庭状況に寄り添い連携を大切にされた支援を行っている</p> <p>園では、児童票や家庭状況調査票により保護者の就労や家庭事情を詳細に把握し、保育時間や急な通院等に柔軟に対応している。子どもの成長に応じた食事や排泄、歩行に関する情報提供を積極的に行い、家庭での育児をサポートしている。子ども家庭支援センターや発達支援巡回との連携体制を構築し、専門的な支援が必要な家庭への橋渡しを適切に行っている。保育参加や個人面談、園だより等を通じた多角的なコミュニケーションは、職員と保護者間の信頼関係を深め、共通認識形成に寄与している。</p> <p>保護者に寄り添い安心して子育てできる環境を支えている</p> <p>保護者の就労や通院など個別の事情にきめ細やかに配慮した保育時間の決定や柔軟な対応は、安心して子どもを預けられる大きな支えである。子どもの成長段階に応じた食事や生活習慣に関する具体的な情報提供は、家庭での育児を円滑にしている。懇談会や保育参加を通じて保護者同士の交流が促され、育児の悩みや喜びを共有し、孤立感なく子育てに取り組んでいる。個人面談では親身な相談ができ、園だより等で子どもの園での様子を具体的に知ることで、成長を共に喜び信頼を深めている。</p> <p>地域と連携し家庭を支える子育て拠点として機能している</p> <p>園では、子ども家庭支援センターや発達支援巡回等、地域内の専門機関との連携を強化し、必要とする家庭への適切な支援へと繋げている。区からの不適切な養育や虐待防止に関する情報提供資料の配布は、地域全体の子どもと家庭の安全意識向上に寄与している。年間行事予定や保育参加を通じた情報発信は、地域住民の園への理解を深め、地域全体での子育て支援の輪を広げている。園は、多様な家庭背景への配慮と地域連携を通じて、地域の子育て支援の重要な拠点としての役割を担っている。</p> | | |

| | | |
|--|--|--------|
| 9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている | | 評点(〇〇) |
| 評価 | 標準項目 | |
| 確認済み | 1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している | |
| 確認済み | 2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している | |
| 評価項目9の講評 | | |
| <p>地域交流を通して感謝と社会性を育む取組を進めている</p> <p>職員は、地域に育つ子どもとして地域の方を知る機会や感謝の心を育むことをねらいとし、多角的な地域連携を推進している。介護福祉施設との交流では手作りカレンダーの贈呈を通じて喜びを分かち合い、消防署訪問では勤労感謝の意を示している。保育所体験や中学生の職場体験受け入れ、子育て支援員実習など、職員以外の多様な人との交流機会を積極的に創出しており、子どものコミュニケーション力向上に寄与している。散歩マップの随時更新は、地域の危険個所の把握と安全管理への高い意識を示すものである。</p> <p>地域との温かな交流を通して心と社会性を育んでいる</p> <p>子どもたちは、地域の介護福祉施設への手作りカレンダー贈呈や消防署訪問を通じて、地域の方々と交流し、感謝の気持ちや社会性を育んでいる。施設利用者からのお礼のプレゼントは、温かい心の交流となり、地域とのつながりを実感する貴重な体験である。保育所体験や中学生との触れ合いは、職員以外の多様な人々と接する機会を提供し、子どものコミュニケーション力を高めている。安全に配慮された散歩活動は、地域を身近に感じながら、様々な発見や学びを得る機会となっている。</p> <p>地域貢献と交流を通じた共生の取組を進めている</p> <p>園は、地域貢献活動として介護福祉施設との交流や消防署訪問を積極的に実施し、地域住民との温かい関係を築いている。施設利用者への手作りカレンダーは喜びをもたらし、地域における世代間交流の促進に貢献している。保育所体験の実施や中学生の職場体験、子育て支援員実習の受け入れは、未来を担う世代の育成に寄与し、地域の子育て支援の拠点としての役割を強化している。散歩マップの公開と更新は、地域の安全情報共有にも貢献しており、地域との共生社会を具体的に実践している。</p> | | |

Ⅲ 利用者保護に関する項目

| | | | |
|--|--|----------|-----|
| 利用者保護に関する項目 | | 標準項目実施状況 | 9/9 |
| 1 評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている | | | |
| 評価 | | 標準項目 | |
| 確認済み | 1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている | | |
| 確認済み | 2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある | | |
| 2 評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている | | | |
| 評価 | | 標準項目 | |
| 確認済み | 1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している | | |
| 確認済み | 2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている | | |
| 3 評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる | | | |
| 評価 | | 標準項目 | |
| 確認済み | 1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている | | |
| 確認済み | 2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている | | |
| 確認済み | 3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している | | |
| 確認済み | 4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる | | |
| 確認済み | 5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる | | |
| 利用者保護の講評(※利用者保護の内容から3つ(必須)記載してください) | | | |
| <p>苦情解決制度の丁寧な周知と、意向を迅速に受け止める体制が確立されている</p> <p>園では、利用者の意向を尊重し、信頼関係を構築するための体制が整えられている。入園時や進級前の面談において、「重要事項説明書」や「利用契約書」を基に、園の窓口だけでなく第三者機関である民生委員や弁護士事務所等も相談先として利用できることを丁寧に説明し、保護者の理解と同意を得ている。また、寄せられた意見や要望、苦情に対しては、「危機管理マニュアル」に基づき、苦情受付担当者と解決責任者が連携して迅速かつ誠実に対応する仕組みが確立されている。</p> <p>職員の自己チェックと対話を促し、組織全体で虐待防止に取り組んでいる</p> <p>園では、虐待の未然防止に向けた組織的な体制を構築している。定期的に「保育士等自己チェック表」を用いて職員一人一人が自身の言動を振り返る機会を設けている。さらに、職員同士が互いの価値観を尊重し、日々のコミュニケーションを通じて気になる言動をその場で伝え合える関係性づくりに努めている。万が一、虐待が疑われる事案を把握した際には、速やかに関係機関と連携して対応する体制も整えられており、子どもの権利を守るための多角的な取組が実践されている。</p> <p>緊急時にも事業を続けるためのBCPを立て危険度の高いものから対策を進めている</p> <p>園では災害、事故、感染症、不審者侵入など、事業運営を阻害する多様なリスクを洗い出し、発生可能性や影響の大きさを考慮した上で優先順位付けを行っている。最優先リスクと位置付ける地震に対しては、東日本大震災の教訓を踏まえ、通信インフラが途絶した場合を想定した安否確認システムの定期的な配信訓練や、災害用備蓄品の整備、年に1回の広域避難場所への避難訓練及び引き取り訓練を計画的に実施している。さらに、全職員が参加して策定した事業継続計画を今後保護者へも周知する予定であり、組織全体で有事への備えを着実に強化している。</p> | | | |

| 事業者が特に力を入れている取り組み① | | |
|--------------------|--|------------------------|
| 評価項目 | 6-1-1 | 利用者等に対してサービスの情報を提供している |
| タイトル① | 個々の背景に深く寄り添い、真に公正な支援を実現する保育実践としている | |
| 内容① | 園の保育実践は、単なる画一的なサービス提供に留まらず、利用者の多様な背景や個別のニーズに深く寄り添う「公正な支援」を徹底している。外国籍の見学者にはルビ付き資料を用意し、離乳食に関心のある保護者には栄養士による試食会を案内するなど、具体的な配慮が随所に見られる。さらに、宗教上の食事制限がある子どもに対しては、献立を工夫し他の子どもと見た目が変わらないように配慮することで、個々の価値観や生活習慣を尊重されている。このような実践は、多様化する社会において、安心して自己肯定感を育める環境を創り出している。 | |

| 事業者が特に力を入れている取り組み② | | |
|--------------------|--|---------------------------|
| 評価項目 | 6-3-4 | 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している |
| タイトル② | 園が構築しているアセスメントと改善サイクルは、質向上を目指す上で参考になる | |
| 内容② | 子どもの心身の状況や生活状況を多角的に把握するため、児童票や個別発達記録といった統一様式を体系的に活用し、個別発達記録では成長段階に応じた記録と見直しの頻度を細かく設定することで、子どもの変化を的確かつ継続的に捉えている。全体的な計画を基盤とした年間指導計画から個別月案に至るまで、具体的な保育計画に有機的に連携している。職員会議に加え、伝言ノートや登降園チェック表といった多様な情報共有ツールを効果的に活用することで、子どもの日々の変化や保護者からの情報を迅速かつ確実に把握し、一貫性のある質の高い保育を実現している。 | |

| 事業者が特に力を入れている取り組み③ | | |
|--------------------|--|-------------------------|
| 評価項目 | 利用者保護に関する項目 | 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる |
| タイトル③ | 全職員が主体的に参画し、組織全体のレジリエンスを高める危機管理体制としている | |
| 内容③ | 災害、事故、感染症、不審者侵入など、多様なリスクを洗い出し、優先順位付けを行い、最優先リスクである地震に対しては、東日本大震災の教訓を踏まえた安否確認システムの定期的な配信訓練や、災害用備蓄品の整備、広域避難場所への避難訓練を計画的に実施しており、事業継続計画(BCP)の策定に全職員が参加している。危機管理が一部の担当者任せになることなく、職員一人一人が「自分事」として捉え、有事の際の対応能力をボトムアップで高めている。この組織的な取組は、予測不能な事態にも柔軟かつ迅速に対応できる基盤を築いている。 | |

| No. | 特に良いと思う点 | |
|-----|-------------|---|
| 1 | タイトル | 個々の成長に寄り添い、安心を育む一貫した個別支援に取り組んでいる |
| | 内容 | 園は、利用希望者から卒園まで、ライフステージに応じたきめ細やかな個別支援を一貫して提供している。SNSやホームページで保育を発信し、外国籍見学者にはルビ付き資料を用意するなど、多様な背景への配慮が徹底されている。園見学や保育体験、離乳食試食会で個別ニーズに対応している。入園後も慣らし保育を柔軟に実施し、卒園後も訪問を受け入れるなど、長期的な関係性構築に努めている。これらの取組は、利用者とその家族に深い安心感と信頼を提供し、子どもの健やかな成長を支えている。 |
| 2 | タイトル | 体系的な記録と計画、密な情報共有で実現する質の高い保育実践に取り組んでいる |
| | 内容 | 園は、子どもの心身状況を多角的に把握するため、児童票や個別発達記録などを体系的に活用し、発達段階に応じたアセスメント体制を構築している。子どもの成長に応じた記録頻度で変化を的確に捉えている。保育計画は全体計画を基盤に年間から個別月案まで体系的に作成され、保護者の要望も柔軟に反映している。職員会議に加え、伝言ノートや登降園チェック表で情報共有を密に行い、全職員が子どもの変化を迅速に把握し、一貫性のある質の高い保育を実現している。 |
| 3 | タイトル | 子どもの権利を尊重し、あらゆるリスクに備える安全管理体制が備わっている |
| | 内容 | 園は、子どものプライバシー保護と権利擁護を最優先に考え、多層的な安全管理体制を構築している。個人情報取り扱いには都度同意を徹底し、SNS写真掲載は園長が最終確認している。羞恥心に配慮した保育も実践している。自己チェック表と研修で子どもの権利尊重を浸透させ、虐待防止ガイドラインに基づき全職員で対応している。BCPを策定し、地震対策訓練や備蓄品整備で有事への備えを強化している。子どもたちが安全で安心して過ごせる環境を保障する、園の強い意志と実践力を示している。 |
| No. | 今後の課題と思われる点 | |
| 1 | タイトル | 事業継続計画(BCP)の保護者への周知と実効性のさらなる強化が求められる |
| | 内容 | 園はBCPを策定し、訓練を実施しているが、文書中に「今後保護者へも周知する予定」とあり、保護者との共有が十分ではない現状がうかがえる。有事の際の連携には、保護者への早期かつ具体的な周知が急務である。BCPの内容を分かりやすく説明する機会を設けたり、保護者向け簡易版マニュアルを作成・配布したりすることで、園と家庭が一体となった危機管理体制を構築し、緊急時における混乱を最小限に抑え、迅速かつ適切な対応が可能となるだろう。 |
| 2 | タイトル | マニュアルの確実な運用と全職員への浸透に向けた継続的な取組が重要である |
| | 内容 | 園はマニュアルを整備し、定期的に見直しているが、多忙な日常業務の中で、特に経験の浅い職員や非正規職員を含め、全職員がマニュアルを確実に参照し、実践できているかについては、さらなる検証と継続的な取組が望まれる。定期的なマニュアル内容の確認テストや、ロールプレイング形式の研修を導入することで、知識の定着と実践力の向上を図ることが考えられる。そうすることで、職員間の業務水準の均一化を一層推進し、安定した質の高い保育サービス提供に繋がることが期待される。 |
| 3 | タイトル | 多様化する地域ニーズに対応するため、外国籍保護者への支援体制の拡充が期待される |
| | 内容 | 園は外国籍の見学者にルビ付き資料を用意するなど配慮しているが、地域社会のグローバル化が進む中で、外国籍の保護者や子どもたちのニーズは一層多様化している。現状のルビ付き資料だけでは、言語の壁や文化的な背景の違いに対応しきれない可能性があるため、多言語対応が可能な翻訳ツールの導入や専門の通訳ボランティアとの連携、多文化理解を深める職員研修の実施などが考えられる。外国籍の保護者がより安心して園生活を送れるよう、情報提供や相談体制をさらに拡充し、子どもたちが質の高い保育を受けられる環境を整備することが期待される。 |